

ものづくりが紡ぐ素晴らしい物語!!



みの～れ芸術展実行委員
美術ワークショップチームメンバー
あいはら としあき
相原俊昭さん

「みの～れは気軽に芸術
に触れられる場所ですね」
と笑顔で話す相原さん。

みの～れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.88

秋風にゆられて一面に咲くコスモスは見事です。山茶花の垣根も白やピンクの花が咲きはじまりました。移り変わる季節にそっと色を添える花々は、私たちの目を楽しませてくれます。今回は、みの～れ芸術展実行委員で美術ワークショップチームメンバーの小美玉市羽刈地区にお住いの相原俊昭さん取材します。

ピンチヒッターから レギュラーへ!!

相原さんは宮城県の出身で、教員として茨城にやって来ました。本当は2〜3年で地元に戻るともりでしたが、茨城は暖かで災害も少なく、住みやすいところなのでそのまま居着いて現在も暮らしています。

みの～れとの出会いは「最初女房が羽鳥駅前のふれあいセンターに勤めていて、そこでみの～れの山口館長と知り合ったんです。それが縁でみの～れ芸術展の実行委員になったんですよ。2〜3年実行委員をやった後、女房から『お父さん代わりにやってみない?』と言われたんです。芸術に關わることも嫌いじゃなかったので代打(?)で実行委員になった。それからみの～れに来るようになったんですよ。」と相原さん。みの～れと關わってからの話をお話を聞くと「みの～れに来るといろいろな人に会えるからいいですね。勤めていた時は自宅と学校との往復だったから、近所

回りの人しか知らなかったので人の輪が広がって良かったなと思います。今年の芸術展では彫刻家の宮路久子先生の担当になりました。宮路先生には芸術展への出展だけでなく、今年度から始まった美術鑑賞ツアーの案内人をしていただいたり、11月に行われる美術ワークショップの講師を務めていただいたりと本当に助けられました」と今年の芸術展の思い出話を交えながら話してくれました。

芸術との關わりについて尋ねてみると「親父が絵を描いていて高齢者美術展に80歳を過ぎるまで出展していました。もともと芸術というものが身近にあったんですね。」と相原さん。

子ども頃は、ゲームなんて無かったから風だったいろいろな物を手作りで作りました。時計を分解して親父にえらく怒られたこともありましたね(笑)。小学生の時に教わった理科の先生の授業が面白くてね。ろうそくの炎は三層になっている。等を説明してもらって、理科って面白いなと思いました」と化学の教員になりました。その先生に似たのが、

相原さん自身もとても話の面白い先生だったそうです。

読書や風・紙飛行機作り、釣りといった多彩な趣味をお持ちの相原さんは「本がたくさんあったので今年古本屋さんで引き取ってもらいました。大きなトラック一台分あったんですが、まだまだあるんですよ!自分で言うのもなんですが、結構貴重な本もあります。また、風作りをしていたこともあって、11月に行われるときめき美の小怪主権の『おやこで風づくりにトライ』ではスタッフとして参加することになりました」と楽しそうに話してくれました。

相原さんにとってみの～れは「気軽に足を運べる場所、陽だまり横丁やときめき美の小径だとか覗いて、芸術に触れてああこんな作品もあるんだなって思えるところです。11月の美術ワークショップではまた一味違う芸術に触れてもらいたいですね」と楽しそうに話してくれました。11月30日(日)に開催される美術ワークショップは、宮路先生に野外彫刻を解説してもらいながら風土記遺跡地を巡る企画となっています。たくさんの参加をお待ちしています。